

問1 平安時代に藤原氏が長期にわたって政治の実権を維持できた仕組みについて、その理由として最も適切な説明はどれですか。

(2023年 鹿児島県公立入試 類似)

1. 自分の娘を天皇の妃とし、その子供を次の天皇に立てることで、母方の祖父や親戚として政治を補助したため。
2. 地方の有力な武士団を直接組織し、反対する貴族や寺社を軍事的な力で抑え込んだため。
3. 天皇を退位させた後に上皇として院庁を開き、天皇に代わって政治の決定を下す体制を整えたため。
4. 地方の荘園の持ち主から土地の寄進を受け、その管理権を独占することで国家の財政をすべて掌握したため。

問2 平安時代の地方政治に関する記録において、安芸国（現在の広島県）から京都の朝廷へ麻が税として納められていたことが記されています。このような当時の徴税と地方統治の仕組みについて説明したものと、最も適切なものはどれか。 (2016年 広島公立入試 類似)

公立入試 類似

1. 朝廷から派遣された国司が、現地の政治や徴税の実務を指揮し、中央の財政を支えた。
2. 将軍から土地を仲介された地頭が、農民から年貢を取り立てて幕府へ送った。
3. 廃藩置県によって中央から派遣された県令が、近代的な地租改正を行った。
4. 各地の戦国大名が城下町を整備し、商工業者から営業税を徴収して軍事費に充てた。

問3 平安時代末期の東北地方において、奥州藤原氏が平泉に中尊寺金色堂などの壮大な寺院を建立した背景として、最も適切なものはどれですか。 (2016年 神奈川県公立入試 類似)

1. 長引く戦乱で亡くなった人々を敵味方の区別なく供養し、仏教による平和な理想郷を築こうとしたため。
2. 鎌倉幕府の軍事的な圧力を退けるため、強固な城郭を兼ねた宗教施設を整備する必要があったため。
3. 朝廷から派遣された国司に対抗するため、独自の律令制度を確立しようという政治的意図があったため。
4. 大陸との貿易によって得られた膨大な富を誇示し、宋の建築様式をそのまま日本に再現しようとしたため。

問4 平安時代中期に、それまでの中国（唐）の影響を強く受けた文化から、日本独自の「国風文化」へと変化していった歴史的な背景として、最も適切な説明はどれですか。 (2023年 岐阜公立入試 類似)

1. 遣唐使の廃止によって大陸との公的な交流が途絶え、それまでに取り入れた大陸文化を日本の風土に合わせて消化・吸収する動きが強まったため。
2. 天台宗や真言宗といった新しい仏教が、唐の最新の文化をそのまま取り入れることを厳格に禁じたため。
3. 律令国家の仕組みが完成し、唐の制度や文化を学ぶ必要がなくなったため。
4. 武士が政治の実権を握り、大陸の影響を受けた貴族文化に代わる、素朴で力強い文化を奨励したため。

問5 平安時代中期、貴族を中心に「浄土信仰」が急速に広まった背景には、仏教の教えが衰える時期が来るとされる思想の影響がありました。この時代に平等院鳳凰堂のような華麗な建築が作られた理由となる、当時の社会情勢や考え方を説明したものと、適切なものを選んでください。 (2020年 秋田県公立入試 類似)

1. 末法思想の影響で、死後の不安を解消するために極楽往生を願うようになったため。
2. 国家の保護を受けて、鎮護国家の思想に基づき巨大な寺院を建てる必要があったため。
3. 禅宗の普及により、厳しい修行を通じて悟りを開くことが貴族の理想となったため。
4. 遣唐使が廃止されたことで、中国の文化を否定し、日本独自の武士の文化が成長したため。

問6 平清盛は、中国の宋との貿易（日宋貿易）を本格化させるため、現在の神戸市付近にあたる瀬戸内海の要所に港を整備しました。この港の名称を答えなさい。 (2014年 沖縄公立入試 類似)

1. 大輪田泊
2. 堺
3. 博多
4. 坊津

問7 平安時代、遣唐使の派遣が停止されるに至った直接的な背景と、その後の影響について述べた文として正しいものはどれか。

(2020年 千葉県公立入試 類似)

1. 唐が衰退して学ぶべき価値が低下したため、菅原道真が停止を訴え、その後の国風文化の発展につながった。
2. 唐が減びて宋が建国されたため、新しい国との外交を開始する準備として遣唐使を停止した。
3. 遣隋使の時代から続く古い制度を廃止し、新たに武士を海外へ派遣するために派遣を中止した。
4. 国内の政争を鎮めるために、有力者であった菅原道真を遣唐使として中国へ永住させることにした。

問8 平安時代初期、最澄が唐（中国）から日本に伝え、その後の日本仏教に大きな影響を与えた宗派と、その拠点となった寺院の組み合わせとして正しいものはどれですか。 (2014年 沖縄公立入試 類似)

1. 天台宗 — 延暦寺
2. 真言宗 — 金剛峯寺
3. 浄土宗 — 知恩院
4. 時宗 — 清浄光寺

答え合わせ・解説

問1	答え 1 自分の娘を天皇の妃とし、その子供を次の天皇に立てることで、母方の祖父や親戚として政治を補佐したため。	藤原氏は「外戚（がいせき）」という血縁関係を基盤に権力を維持しました。自分の孫にあたる天皇が幼少の間は「摂政」として、成人してからは「関白」として政治を司り、実質的な最高権力者として振る舞いました。これは武力や法的な制度の変更よりも、天皇との個人的な血縁の結びつきを重視した政治スタイルです。
問2	答え 1 朝廷から派遣された国司が、現地の政治や徴税の実務を指揮し、中央の財政を支えた。	平安時代には、地方の特産物などを税として中央に届ける仕組みがあり、その実務を責任者として担ったのが国司です。安芸国から麻が納められた例のように、各地の産物は国司の手を通じて京都の朝廷へと運ばれ、国家の財政基盤となりました。
問3	答え 1 長引く戦乱で亡くなった人々を敵味方の区別なく供養し、仏教による平和な理想郷を築こうとしたため。	奥州藤原氏の初代清衡は、前九年の役や後三年の役という激しい戦乱を経験しました。清衡は、その戦いで犠牲になったすべての生命を供養し、阿弥陀如来の力によって東北地方を仏の住む浄土（平和な世界）にしようと思い、中尊寺の建立を進めました。この浄土信仰が平泉の文化の根幹となっています。
問4	答え 1 遣唐使の廃止によって大陸との公的な交流が途絶え、それまでに取り入れた大陸文化を日本の風土に合わせて消化・吸収する動きが強まったため。	遣唐使の廃止により、中国の文化をそのまま模倣するのではなく、日本の気候や生活習慣、日本人の感性に適した形へと作り変える傾向が強まりました。これが、大和絵や寝殿造、かな文学といった日本独自の文化形成につながりました。
問5	答え 1 末法思想の影響で、死後の不安を解消するために極楽往生を願うようになったため。	平安時代中期（1052年頃～）には、仏の教えが正しく伝わらなくなる「末法」の世が来ると信じられていました。この「末法思想」による不安から、阿弥陀如来にすがって死後に極楽浄土へ生まれ変わることを願う浄土信仰が爆発的に広まりました。藤原頼通が建立した平等院鳳凰堂は、まさにその切実な願いを形にした建築物であり、当時の日本独自の「国風文化」の象徴でもあります。
問6	答え 1 大輪田泊	平清盛は、日宋貿易による経済力の確保を重視しました。大型の貿易船が安全に入港できるように、現在の神戸市兵庫区付近にあった大輪田泊を大規模に修築・整備しました。この港ののちに「兵庫の津」と呼ばれ、現在の神戸港の源流となりました。当時の地図情報においても、瀬戸内海の東端に近い、現在の兵庫県神戸市周辺に位置する重要な海上交通の拠点です。
問7	答え 1 唐が衰退して学ばべき価値が低下したため、菅原道真が停止を訴え、その後の国風文化の発展につながった。	894年に菅原道真が遣唐使の停止を求めた最大の理由は、唐の弱体化によって命を懸けてまで渡航する意義が薄れたことにあります。公式な使節の派遣が止まったことで、それまで取り入れてきた大陸の文化が日本の風土に合わせて消化され、かな文字の普及などに代表される「国風文化」が開くこととなりました。
問8	答え 1 天台宗 — 延暦寺	最澄は、唐に渡って仏教を学び、帰国後に比叡山（滋賀県と京都府の境）に延暦寺を建立して天台宗を広めました。空海が和歌山県の高野山に金剛峯寺を建てて開いた真言宗と混同しないよう注意が必要です。延暦寺は「日本仏教の母山」とも呼ばれ、後に鎌倉新仏教を開く多くの僧侶たちがここで修行しました。